
見る目

津雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

見る目

【Nコード】

N5132M

【作者名】

津雲

【あらすじ】

少しくたびれた大人の男性と女の子の組み合わせってのでもいいもんですよねな話

「キミはね、恋をしているんだろう？」

社会科準備室で、この前の定期考査の採点をする先生の後ろ姿をぼんやりと眺めていた樹里はその声にハツとした。

何故先生はその事に気づいてしまったのだろうか。

自分は一度もそんなそぶりを見せなかったはずなのに、と。

気づかれたという事実で内心驚愕の感情でいっぱいだったが、人間あまりに衝撃を受けると顔には出づらくなるのか、表面上は落ち着いているように見える（と思いたい）。

「先生、なんでそう思うの？」

「ふふっ、今はこれでも私は昔はそこそこイケていたと言える方でね、恋を見る目にはちょっと自信があるのだよ」

そう言って笑う先生を見ると、いつもは少しくたびれた感じで年よりも老けて見えるのに、今だけは自分とそう大して変わらない年のように見えた。

それだけ、その笑顔は、何というか、買い与えられた玩具を自慢する子供のような感じだった。

そして、それは先生もそんな笑顔が出せるんだ、とかれこれ三年の付き合いになる樹里でも見たことのない笑顔だった。

「あれかな、2組の佐藤……いや同じ組の桐生あたりじゃないかい？」

「え？」

「あれ、違ったかい？」

んー、絶対彼らの内のどちらかだと思ったんだが……」

そのまま顎に手を当てて、先生は考えこんだ。

どうやら採点は終わっていたらしい、採点済みのテストの山はあっても、採点待ちのテストの山はなくなっている。

しかし、そうか、先生は気づいてないようだ。

相手が誰なのかは。

だから、幼なじみ2人の名前が出てきた。

そう思うと、樹里は安堵した。

そして、同時に安堵した自分が悲しくなった。

（まあ気づく訳ないよね、18も違うわけだし。

後、教師と生徒っていう立場的には考えないだろうし……）

「あはは、先生知りたい？」

「ああ、まあ知りたいかな、放課後僕の城に入り浸る女の子に、ついに春を訪れさせた男の子を。」

「そっか、でもいーわない」

本当は言いたかった。

けど、その言葉を言ったとしてどうなるのだろうか。

関係が壊れてしまうだけなのではないか。

気持ちを知った先生が、私を避けるだけなのではないか。

関係がいい方に変わるわけではないじゃないか。

そう思うと樹里は言えなかった。

「……まあプライベートな事だしね、仕方ない。

けど、やっぱり、なかなかどうして私の恋を見る目は確かなようだ」

そう誇らしげに言う先生に、樹里はほんの少しだけ笑いたくなった。だって、その目が本当に確かなものなら、私の気持ちに気づいたって良いじゃない。

気づかないなら、それは私にとっては恋を見る目とは言えない、と樹里は感じたから。

先生、ダメダメだよ、その恋を見る目は。

(後書き)

駄文につきあってくださりありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5132m/>

見る目

2011年1月20日02時27分発行